

完成

今回の修理により、横シワがなくなり、絵具が安定しました。また、クリーニングを行い、表具を仕立て直したことで、作成当初の鮮やかな色彩がよみがえりました。



修理後の写真

修理前には“のりしろ”として隠れていた絵の四辺の端をすべて見えるようにし、本紙の寸法も少し大きくなりました。

修理後の寸法 本紙 縦 131.2cm×横 103.9cm

保存修理事業の概要

補助事業名：重要文化財 絹本著色豊臣秀吉像保存修理事業

事業の組織

事業主：公益財団法人 宇和島伊達文化保存会 理事長 伊達 宗信

業務請負：株式会社 墨仁堂 代表取締役 山口 聡太郎

調査請負：独立行政法人国立文化財機構 東京文化財研究所

修理指導：文化庁

事業期間：令和元年6月～令和3年3月 ※本事業は、文化庁・愛媛県・宇和島市の補助を受けて実施しています。

発行：公益財団法人宇和島伊達文化保存会

監修協力：株式会社 墨仁堂・独立行政法人国立文化財機構 東京文化財研究所

印刷：廣文社印刷株式会社



重要文化財 絹本著色豊臣秀吉像 保存修理事業

1. 修理の概要



修理前の写真

はじめに

豊臣秀吉の側近であった富田一白が、その偉功をしのんで秀吉亡き後の慶長4(1599)年、狩野派の絵師(※近年の研究成果により狩野光信が筆者とされる)に描かせたものです。一白の嫡男信高により金剛山正眼院(のちの宇和島伊達家の菩提寺：金剛山大隆寺)へと奉納され、幕末の弘化4(1847)年に宇和島伊達家へ献上されました。

国内に現存する豊臣秀吉の肖像画の中でも、最も大幅で優れたものとして、重要文化財に指定されているものです。

作成から 400 年以上の時がたち、その肖像画には、絵具の剥落、本紙として使用されている絹地の破損などの劣化が目に見えて明らかになりました。そのため、国庫補助を活用し、令和元年度から令和 2 年度までの 2 ヶ年にわたり、資料を後世に伝えていくために修理作業を行いました。

本稿では、その修理事業の概要をお伝えします。

修理前の寸法 本紙 縦129.4cm×横103.4cm

2. 東京文化財研究所による顔料の蛍光X線分析

この調査によって、豊臣秀吉像に使用された絵具の顔料の成分がわかりました。

表面：56 箇所
裏面：45 箇所
2 ヶ年で計 101 箇所の分析を行いました。
主な素材は右図のとおりです。

表面からの蛍光X線分析結果 主成分元素(推定顔料)

	Hg 水銀 (朱)
	Au 金 (金泥)
	Ag 銀 (銀泥)
	Cu 銅 (緑青)
	Cu 銅 (群青)
	Fe 鉄 (代赭)
	Ca カルシウム (胡粉)



東京文化財研究所の分析結果を基に(株)墨仁堂で作図を行った

3. 主な損傷箇所とその修理について

この作品の最も特徴的な損傷は、絵具の剥落です。本修理では、浮き上がっている絵具片を安全に元に戻し接着させるとともに、粉状化が進む層内部にもニカワを浸透させて絵具層全体の健全化を図ることが第一目的です。また本紙全面に広がる横折れを解消することによって、今後の絵具層の不安定化を予防する事を目的として作業を進めました。

修理前



① 顔→部分：横折れと絵具の剥落



② 敷物→部分：絵具の剥落



③ 装束のすそ→部分：絵具の剥落



④ 畳の縁：横折れが発生し、絵具の剥落が著しい



⑤ 床板○部分：欠損箇所に異質の補彩



修理後



① 顔：横折れが目立たない



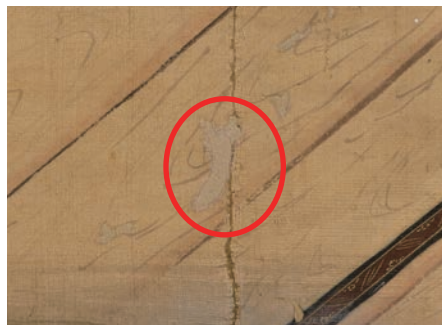
② 敷物：絵具の剥落箇所が分からない



③ 装束のすそ：絵具が安定した



④ 畳の縁：横折れは無くなり、絵具が安定した



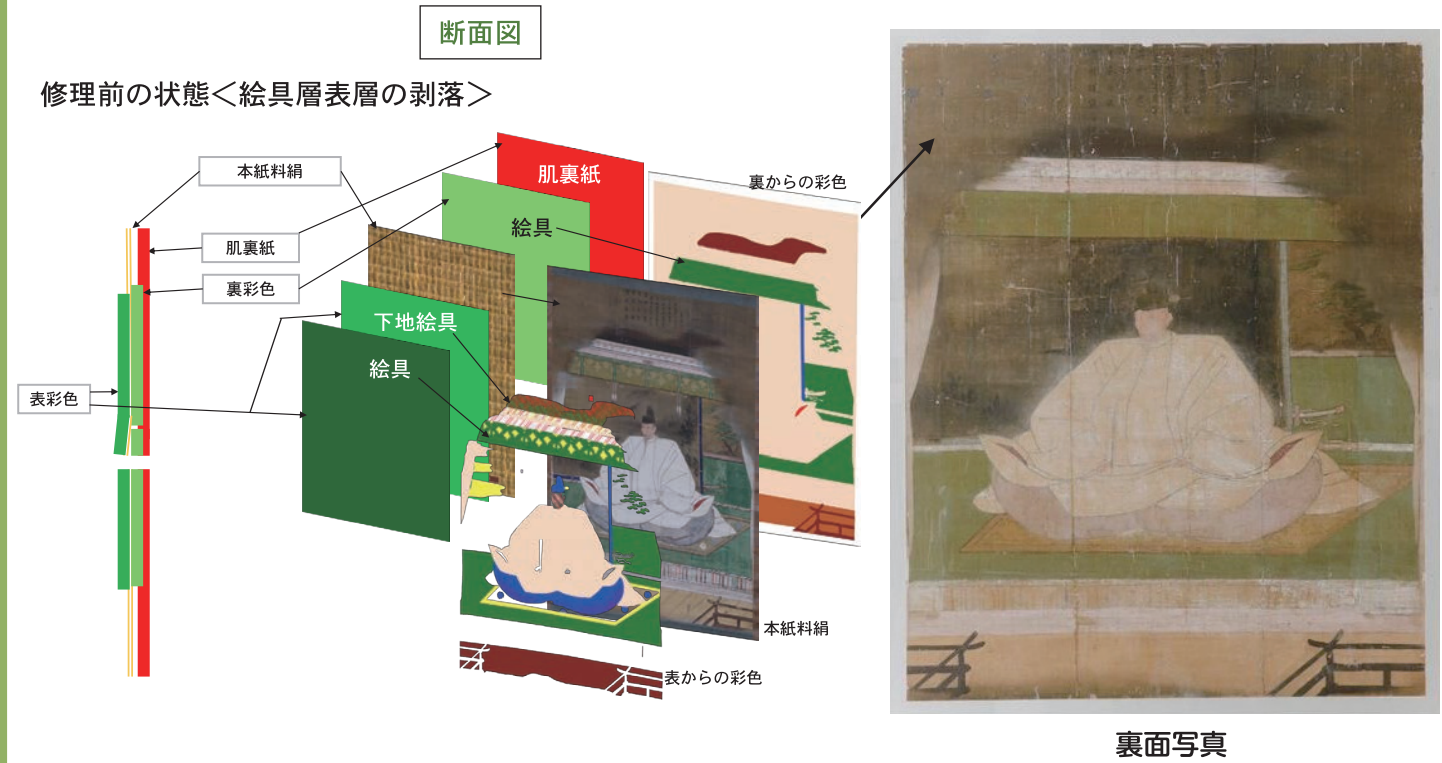
⑤ 床板：欠損箇所が目立たない

修理方法

- ①～③：柔らかい筆でホコリやゴミを除去後、ニカワ水溶液で剥落止めを行った。
- ④：絵具層の浮き上がりに対して剥落止めを行った。
- ⑤：補彩された穴埋めの絹を除去し、電子線で強制劣化させた新しい絹を、欠損部と同型に切り抜いて整形し、欠損部にはめ込んだ。

4. 解体後に判明したこと

表具を解体すると、以下の図のような構造になっていました。



本紙の表と裏の両面から彩色がなされていることがわかりました。



また、表具^{きれ}裂を外した後の上軸(表具の上に付いている棒)に、**墨書**がありました(左写真)。

墨書には、
「皇太子殿下(昭和天皇)伊達家へ行啓アラセラルヽ二付、
當(当)家密藏之幅(掛軸)ヲ東京市麹町区三番町五一
坦々堂表装師藤間與四郎之仕立直ス、時八大正拾一年
拾月(十一年十月)」
と記されていました。

昭和天皇が皇太子時代の大正11(1922)年11月25日に、
宇和島伊達家の邸宅に行啓されたことがありました。その
とき、伊達家では大切にしていたこの掛軸を御覧頂く
ため、事前に東京麹町の坦々堂の表具師藤間與四郎に表
具を仕立て直させたことが分かりました。

今回の修理では、新しい軸木に新調されますが、これま
での経緯が分かる貴重な資料として、豊臣秀吉像の掛軸
とともに保管し、後世に伝えていきます。